

各 位

会 社 名 株式会社ハーバー研究所
 代表者名 代表取締役社長 小柳 昌之
 (JASDAQ・コード番号 4925)
 問合せ先 取締役 総務部・経理部担当 鍋島 厚
 電 話 (03)5219-5660

中間連結業績予想の修正に関するお知らせ

直近の業績の動向等を踏まえ、平成 19 年 5 月 21 日に公表いたしました平成 20 年 3 月期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）の中間期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日）の連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 20 年 3 月期中間連結業績予想数値の修正（平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日）

連結業績予想

（単位：百万円）

	売 上 高	営業利益	経常利益	中間純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	5,313	323	316	180
今 回 修 正 予 想 (B)	5,200	100	100	50
増 減 額 (B - A)	113	223	216	130
増 減 率 (%)	2.1%	69.0%	68.4%	72.2%
(ご参考) 前期実績（平成 19 年 3 月期中間）	5,398	397	445	176

平成 20 年 3 月期通期の業績予想（連結・単体）に関しては、前回発表のとおり修正はありません。

〔ご参考〕

（単位：百万円）

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成 20 年 3 月期連結業績予想	11,700	1,200	1,180	673

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成 20 年 3 月期単体業績予想（中間期）	2,450	95	119	26
（通 期）	5,608	432	480	274

2. 修正の理由

売上高は、前期末に限定販売した高保湿化粧水「プラチナモイスターローション」が、低価格で少量の使用で効果があり売上を伸ばしたため、逆に当期に入ってから定番の大容量化粧水が買い控えられてしまったこと、及び原料高により一部の商品企画を中止したことが大きく影響したものです。利益は、前期は例年と異なり上期に広告宣伝活動をほとんど行わず、販管費が大幅に減少しましたが、当期は例年通り新規顧客獲得のための販促活動を積極的に展開したことから広告宣伝費が増加し、営業利益が減少したことに伴い経常利益、四半期純利益も減少しました。これらの状況を踏まえ、上記の通り平成 20 年 3 月期中間の連結業績予想を修正いたしました。なお、中間の単体業績予想および通期（連結・単体）の業績予想については、修正はありません。

なお、上記の中間連結業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後、様々な要因によって予想数値と異なる結果となる場合があります。

以 上